

## 2-5

### 慢性C型肝炎の補完医療

—続報—

○曾根 美好<sup>1</sup>、中島 修<sup>2</sup>、黒川 香<sup>3</sup>、  
池川 哲郎<sup>4</sup>

1 (日赤血液センター)、2 (山王病院内科)、

3 (東京女子医大消化器センター)、

4 (日本統合医学研究会)

〔目的〕慢性C型肝炎治療の第1選択薬は、インターフェロン (IFN) であるが、有効率が低く、多くの症例が肝硬変症を経て肝癌に移行すると言われている。従って、今日、的確に治癒させる治療方法は無いと言える。

昨年の本学会で、IFN 療法後の慢性C型肝炎患者 99 例を3群に分け、それぞれの群に小柴胡湯、スクアレン (SQ) とセファランチン (CE) を5ヶ月間連続投与した成績を報告した。今回は、同一の方法で60ヶ月 (5年間) 連続投与した結果を報告する。

〔結果〕肝機能検査のうち、AST、ALT は経時的に改善され、治療前値に比し、危険率それぞれ  $P < 0.01$ 、 $P < 0.05$ 、 $P < 0.05$  で有意に低下した。肝繊維マーカーのうち、PIIP は危険率、 $P < 0.01$  で有意に低下した。同意にIV型コラーゲンも有意に低下した。また、HCV-RNA 量も有意に低下した。危険率は、小柴胡湯投与群で  $P < 0.05$ 、SQ 投与群で  $P < 0.01$ 、CE 投与群で  $P < 0.05$  であった。また、これらのデータを統括した臨床的有効率は、小柴胡湯群で 60.6%、SQ 群で 57.4%、CE 投与群で 54.5%であった。

次に、これら3剤を5年間投与した結果、全く改善されなかった5症例に対して *Taxus yunnanensis* (TY) を、6ヶ月間経口的に投与した。その結果、4例において肝機能の改善を認め、2例において HCV-RNA 値の低下を認めた。これらの成績も合わせて報告する。

〔結論〕小柴胡湯、SQ、CE は HCV によって進展する慢性C型肝炎→肝硬変症→肝癌の過程を抑制する上で、有用な補完医療と言える。また、TY は、これら3剤が無効であった症例に対して有用であることが示唆された。